

アマダイ通信NO. 107

(Tile fish network letter)

2015年 ムクゲ花盛り

知人・友人各位

ようやく本通信を書き終えた朝に、ギリシャは国民投票でEUによる緊縮策の受け入れを拒否した。ユーロから離脱するにしろ残留するにしろ、ギリシャ国民にはこれまで以上に厳しい現実が待っている。翻ってギリシャに比べても、国民所得に対する国の債務の割合が圧倒的に高い日本は大丈夫なのか？国の借金の圧倒的割合は、金を使えない国民が金融機関に預けた金が国債に化けたものだが、いつまでもこの状態が続く保証はない。経済再生と財政再建が待ったなしだ。ギリシャの今が、明日の日本にならないことを祈りたい。

◎長生きリスク、漠とした恐怖からの解放を！

5月の三鷹クラブの120回講演会。講師は1年先輩、入寮時の寮委員長の宮原経団連副会長・日本郵船会長（当時）。寮での選択がそれぞれの人生航路を変えたとは言え、あの時違う選択をしていればあり得たかも知れない半生を、色々と想像出来るのも楽しい。

テーマは「日本丸のこれから」、上部構造(政治)は下部構造(経済)に従う訳だから、経団連は政府の経済政策の指南役、基本的にはアベノミクスをなぞる様な話。金融緩和と公共投資によるデフレ阻止、規制緩和による経済活性化、医療・福祉・年金の見直しによる経費削減が柱。しかしバブル崩壊後の「失われた20年」の日本経済の停滞は需要と供給のミスマッチ、需要不足、消費不足に原因があり、しかも需要不足解消のために公共事業の大盤振る舞いが行われたが、景気は回復せず、国の借金が1千兆円超にまで積みあがっただけ。国民は稼いだ金を自分では使えず、子供の教育資金、マイホーム購入資金、老後の資金として銀行・郵便局に積み立て、金融機関はせっせと国債を買うことで、国の公共事業に資金を回して来た。

もし北欧諸国の様に教育や医療が無料で、リタイア後に尊厳ある老後が保障される年金があれば、年金の他にわざわざ老後の資金を貯めたりせず、その時々を楽しむために、稼いだ金を使うことで、消費不足、需要不足が解消される。需要不足が解消されれば旺盛な消費を取り込もうと、設備投資が行われ、雇用も回復、景気も回復する。それではその財源をどうするか？だが、働ける高齢者には働いて貰い、余裕のある人には多く負担して貰う、女性にも働いて貰える制度を創ることでしか解決出来ないのではないかな？少子高齢化が現実化し、労働力不足が言われ始めた今こそチャンスではないかな？

国の借金が多いから、年金も介護も医療費も削減し、自分のことは自分で面倒みて下さいと、消費抑制、自己防衛へと走らせるのではなく、元気な内は働いて、稼ぎや資産の多寡に応じた負担をお願いします。いざというときは国が面倒みますと、安心して働き、消費を楽しむことの出来る社会を目指すべきではないかな？今は皆が長生きするリスク、個人に取っては人生がいつ終わるかわからないリスク、しかし世代としてみれば確実に終わりがわかるリスクのために、今の生活を犠牲にし、終わりのわからない老後に備えて貯蓄に励むという、漠然とした恐怖から、国民を解放する必要があるのではないかな！

◎ 1968年4月1日の朝日新聞・寮委員長 H 君の一炊の夢

6月頭の金曜日、18回目の三鷹寮S40・41年入寮合同同期会で、1年先輩の高口さんから、朝日新聞社会部長の署名入り記事「三派系全学連...世間と隔絶する学生たち」(68年4月1日)をプレゼントされる。そこには東大三鷹寮委員長 H 君と、後に霞ヶ関で、事務次官に次ぐ No.2 の省審議官にまで出世した寮委員で、●の次の寮委員長 K 君の活動と葛藤が紹介され、学生が「過激な活動」に走るのは、大学教育に問題があるからだとは断じる。東京に住み、出世の階梯を上っていたエリートジャーナリストには、地方で、底辺で、その日に炊く1升の米すら借りて歩く日雇い仕事の家族、親父が飲んべえで、上下の綿の布団さえなく、藁しべの「マットレス」にくるまって寝る漁師の家庭、猫の額の土地を耕し、裏山で山菜やきのこを探し、殆ど自給自足、新聞を取る家庭も数えるほど、元ニシン漁の網元兼地主、代々郵便局長の●の実家でさえ麦混じりの飯を食い、庭の隅に鶏が産んだ卵ご飯がご馳走、客があるとその鶏を絞めて、キリタン鍋でもてなすのがやっとな。味噌や納豆も自家製の、秋田の貧しい漁村の暮らしなど、知る由もなかったろう。

貧しさに同情や怒りを覚え、本や新聞を読むのが大好きでも、それを解決する手立てに思い至らない文学少年 H。恥ずかしながら、大学に進んで世の中が資本主義社会という貧富の差の激しい階級社会であることを学ぶ。格差を横目に対岸に渡り、エリートコースをひた走るか？同じ岸に留まるか？葛藤。解決策を真剣に考え、悩み、マルクスも学ぶ。結論が社会主義革命。階級のない社会を！24時間革命のために！「全世界を獲得する」ために！マルクス青年 H は猪突猛進。しかし、60年の日米安保条約反対闘争の国民的盛り上げに革命前夜の恐怖を感じた自民党はタカ派の岸首相を退陣させ、ハト派の池田首相が所得倍増政策を打ち出し、日本は元祖「世界の工場」として、今の中国のように経済の高度成長を遂げる。国民所得も倍増する。しかも共産党一党独裁の中国とは異なり、代議制民主主義の日本では先ず富める者から富むという中国流の「先富論」は通用せず、地方、階層を問わず、遍く「豊か」になり、革命の基盤は潰える。右翼の自民党が政権基盤を安定させるために左翼に位置する社会党の社会福祉政策まで取り込む。東西冷戦体制の下で結果的に「一億総中流」の豊かな、格差の少ない、世界で最も「社会主義的な」日本が実現する。68年の10.21反戦闘争で市民を巻き込み新宿一帯を占拠、破壊活動防止法を発動させるに至った闘争を頂点に、日本の社会主義運動も後退一方になる。戦後日本の、とりわけ秋田の「貧しさ」を原点にした寮委員長 H 君の「革命運動」は、冷戦体制の下で、反体制派の主張も取り入れ、池田首相以降の保守政権が実現した「社会主義日本」に負けたとも言えよう。逆に H 君の志はその意味では、部分的にでも実現したと言えないか？

しかし今、冷戦体制崩壊後の世界に目を向ければ、資本主義的生産様式は中東欧を含め世界を覆い、グローバル化した市場経済は格差の拡大を伴いながらも途上国の所得をかさ上げ、世界をフラット化した。だが市場が世界に拡大、成長を謳歌した欧米先進国経済も並べて低成長に苦しみ、論壇でトマ・ピケティの「21世紀の資本」論が注目を浴び、「資本主義の終焉」すら語られる。冷戦体制崩壊後四半世紀で辺境を飲み尽くし、成長を止めたかに見える資本主義経済は、求めて止まないニューフロンティアをどこに、どんな形で見つけるのか？みつけれずに終焉するのか？終焉後に来るものは何か？マルクスが社会主義世界革命を考えた19世紀の資本主義社会はイギリス、フランス、ドイツのみ。しかし革命は皮肉にも辺境のロシアで起こり、中国へと波及、「一国社会主義」として失敗した。

星月

昭和43年(1968年)4月1日

月曜日

12版

(14)

三派系全学連

世間と隔絶する学生たち

社会部長 八木 淳

成田でまた三派系と三派系の学生がぶつかった。このニュースをみて、「またか」と否りける論者も多いことであろう。われわれもそう思う。暴力をふるふことは、われわれも論者とともに足

ある新入生の場合

デミに参加する学生は一年生が多い。彼らに理論があるのか、というのが大方の諸君の疑問であろう。われわれもそのことを疑問にした。そして、新入生がどういう過程でデミに参加するにいたるかを具体的に取材した。たとえば次のような例がある。

東大教養学部三派系の委員長H君は社学同M派の活動家である

昨年十一月に行われた委員長選挙で、H君は一票で民青系のS君を抑えた。運動場にあるS君の賛議員は、委員長に任命された。この一票は大きかった。

H委員長は委員の一人に一年生のK君(二)を選んだ。ときどきデミには参加するが、闘士とはほど遠いおとなしい学生で、H委員長はそんなK君に、あこがれの言葉をいかけた。

賛議員は一室で早起きを共にする。K君にとって、いままで知らなかった熱い議論に耳をかたむける機会が多かった。三派系に近い活動家登用メソッドにもよ

くこわれる。賛議員として学校側の「国交」にも出る。こうして入学したこの自分とはいかに「要質」していくことがよくある。

理論に先行する行動

根本には「教育」の問題

委員長にさそわれて三派系内のある旅館で開かれた社学同M派の全国闘争合宿に参加。「おぼろげながら革命の必然性ばかり勉強になった」といふK君に、H委員長

認でない。だが、こうした学生の暴走は、後もうづく意見はならない。しかも、彼らの行動が世間一般と断絶し、その意図の理解が難しくなる問題をますます複雑にしている。

「戦争?」「反対です」「デモに行ってみない!」——反戦デモ。それは、闘士への門である。体で戦う必要性を知る立場から入った学生が強い。明々学生

一月。寮生大会は佐世保のエンタープライズ阻血に寮からも代表を差すことになった。一月十六日、K君は九州大学にいた。はじめての体験、どうしてよくわかる。大学をあげ出し深夜食堂で夜を明かす。テレビに映る学生で、機動隊の激突、賛代表なのに逃げた自分。九大にもいる。十八日、スタッフで機動隊にぶつかる。さんざんやられた。十九日、角材をふるった。

マスプロ授業に失望。それから三月中旬、K君はH委

物や活動家に向くようになる。「高校時代に共産主義理論を学んだ学生より、何も知らず行動から入った学生が強い。明々学生

を煽惑する。そこで、ますます言

混乱を生み出すもの

彼らの過激な行動に対しては、こんなに政治的状況に左右されている。彼らの過激な行動は、これは考えられない。彼らの過激な行動は、これは考えられない。彼らの過激な行動は、これは考えられない。

会の幹部の一人H君はそういう。かれらグループには、上級生、下級生の差や規律はない。理論家、組織の幹部たちが、学生に、関係なく、闘となる。明大の場合、A君派、B君派、C君派と、幹部がそれだけ学生集団にきついている。しかし、その集団の中で、新入生は迷っている者が多い。取材記者に話して、悩まを打あけて、たいたい気持もあるようだ。かばは、一般の大人の間にもあるように思われる。

入りは迷っている者が多い。取材記者に話して、悩まを打あけて、たいたい気持もあるようだ。かばは、一般の大人の間にもあるように思われる。

つては多くの場合、専門の理論家が編成されるという。

勉強の不足を痛感

欲しいふつかり合いて、多くの学生はショックを受ける。迷う。そのアツケアツケに有効なもの一つがカンパである。新米闘士である。わからないながらも答へねばならない。頭の中にあるアツヒラ、機関紙、先輩の話を聴き、自分の正当性を主張する。しかし内は勉強の足りなさを感じている。そこで、ますます言

カンパの話にええと、学生もつて署名用紙に「ベトナム戦争反対」「王野戦闘争反対」「成田国際空港建設反対」とある。そして市民と学生の間で話合いがおこる。市民は、ベトナム、王野戦、わがわが、成田はわかんないという。市民は、市民の婦人、学生が多くの、また議論しかけるのは、サリナーン、一般学生が、革命の話になると、非常に、激しい関心を感じている。

出張の朝、胸苦しさを覚え救急車で近くの聖ルカ病院へ。一通り検査するが異状なし。

13年前、大腸がんステージⅢb（転移あり、殆ど治癒する見込みなし）を手術して以来かかりつけの、お茶の水駅前の三楽病院にあらためて診察に。仰向けではなく、体を左右に横に起こしたり、ランニングマシンで走りながらの心電図検査。若い循環器科の先生によれば負荷をかけての心電図、超音波検査でも異常なし、体力的にも問題なしという。超音波の黒い画像の中で●の心臓は規則的に拍動、昼夜を分かたず頑張っていると感動。尤も頑張っていなければ、この世にはもう存在しない。

救急車騒動以来、それまで医薬癒着の不信から、習慣病クリニックで貰っている二種の降圧剤は血圧の数値で飲んだり、飲まなかったりだったが、狭心症対策のアムロジンは欠かさず飲むようにする。細胞内へのCaイオンの流入を減少させ、抹消血管や冠血管の平滑筋を弛緩させることで血圧を下げ、狭心症発作を予防または和らげる、高血圧症や狭心症の治療薬だ。グレープフルーツに含まれる成分が薬の作用を強めることがあるので、一緒に飲んではいけないという。時々ふわっとした気分になったり、息苦しさを感じた時に携帯用の血圧計で計ると190を越えていて、慌てて降圧剤を飲むことがあるという。降圧剤は飲み続けることで効果があるので、飲み続けなければいけませんとのこと。もう1剤オルメテックはどうするか？こちらはカルシウム拮抗剤のアムロジンと違って、心臓の収縮力を高め、細動脈を収縮させて血圧を高める昇圧物質アンジオテンシンⅡ（以下AⅡ）と拮抗し、AⅡがAⅡ受容体に結合するのをブロックする事で血圧を降下させる。これも無条件に飲み続けるのか？取り敢えず6月の頭に三楽病院の生活習慣病クリニックに行くと、どちらかと言えばオルメテックの継続を勧められ、一度ドックで精密検査をすることに。以下は先輩からのアドバイス。

◎アマダイ通信、たのしく読みました。胸が重苦しかったとのこと。心電図はじめ、各種検査をして異常なしなら結構ですが、CTスキャンを受けたかどうか心配です。心電図だけではよくわからないようです。

わたしも1年半ほど前に左肩から首筋、胸にかけて重苦しく、街の循環器専門医と称するクリニックに行ったら、「それは整形外科で診てもらってください」といわれ、この藪医者めと思い、総合病院を受診。最初のきめてはCTスキャンで、冠動脈の一本に狭窄があり、カテーテル検査で狭窄率は50%で、しばらく様子を見る。ことし3月坂を上がるとき、多少の違和感を感じ、再度総合病院で検査。カテーテル検査で狭窄率が約75%、このままでは狭心症または心筋梗塞発作の可能性があるので、ステント挿入手術を受け、血流は100%近くになりました。狭心症は胸が痛く、立ち止まってしゃがみこむほどの症状だとおもっていましたが、実際は軽い痛みというより重苦しい違和感でした。

●さんも、症状を軽くみないで、CTスキャンをとり、必要ならカテーテル検査を受けるよう、お勧めします。カテーテル検査は腕の動脈からカテーテル（細い柔軟な管、直径3ミリほど）を挿入しますが、腕の局所麻酔だけで身体の負担は全く感じません。一泊2日の入院が普通ようです。検査症例の多い病院での受検をお勧めします。わたしは、湘南鎌倉総合病院でしたが年間5600例ほどカテーテル検査、ステント手術をしています。ご自愛のうえ、ご活躍ください。

村山孝喜(S27年入寮)

◎通信の中で●様が急に胸苦しい、息苦しい状態がかなりの時間続き、診察と諸検査では異常なく、その後は無症状・快調・スポーツも差支えなしとのこと。超音波検査で心臓弁膜症などはなく、心臓自体には形態的問題がないようです。このように一時的に胸苦しい、

息苦しい症状がみられ、その後何ともないのは、不整脈（脈の異常でその時だけ機能が障害される）かもしれません。24 時間心電図記録（ホルター心電図）を撮ってもいいのですが、今後の経過をみることでよいと思います。 松下 哲（S29 年入寮、医師）

◎金がない！金はあるのに使えない！

先日、大阪、広島出張、田んぼと竹林の若草色の綺麗な東海道と山陽道进行。新大阪からののぞみにはついていないが、東京からののぞみにはウォシュレットがつく。JR 東日本の新型新幹線、ANA、JAL の新しい飛行機に続いて、のぞみにもウォシュレットがついて、日本の旅はますます快適に。JR 東海、JR 西日本にも感謝！5 時に打合せを終え、広島焼きで生ビール 3 杯と日本酒を 1 杯、新幹線をホテルにして帰京。その翌日、快適で、便利、安全、安心な新幹線で、焼身自殺があり、煙を吸って亡くなった人や怪我人が出た。

その週末、長岡まで出張、越後湯沢の温泉宿、稲本に泊まる。夕食の会場はここですと案内されたので、最近多い大宴会場で、のびっぴりと心配したが、同行の 4 人、個室で美味しい料理と越後の地酒を楽しむ。翌朝、先ず一風呂浴び、朝食で迎え酒にビールを一杯。食後又、一風呂浴びる。温泉のこの解放感がいい。東海道新幹線の焼身自殺で道連れの犠牲者が出たばかりだが、土曜日朝の新潟始発上越新幹線はほぼ満席。少なくとも今の日本で、類似の事件が続くことはない、皆安心しているからか？それでも JR の緑の腕章をつけた私服の職員が途中で見廻りに来る。出札口でも制服の改札員のお姉さんとは別に私服の職員が目を見回している。駅中のトイレも 2 人組の制服警備員が見回る。

焼身自殺の 71 歳の老人は職を転々としながらも年金を掛け続けて来たのに、70 歳を越えて職を失ったら、年金では食べていけないと不満があったらしい。80 歳までの住宅ローンを背負い、働き続けなければならない 68 歳の老人は身につまされる。他方で同世代の多数の人間は、少なくはない「老後の蓄え」があっても、老後がいつ終わるか分からないために、その蓄えを使えない。安心の老後を楽しめない。同世代内のバランスの取れたシルバーライフの制度設計で解決出来ないものか？真面目に働き続けた人、不幸にして働けない人でも、人間らしく生きていける社会、心安らかに人生を終えられる社会でないと、安心して新幹線で往き来することも、街中を歩くことも出来ない。これ以上格差が広がる、治安維持のコストも嵩む。心も休まらない。そんな社会にはいけない。

◎秋田原産の生薬を宜しく！

6 月 29 日の朝日新聞（一都 5 県）に東京生薬協会とそのメインメンバーの龍角散のカラーの全面広告、「秋田の地で、国産薬用植物が育っています・・・本格出荷へ。未来へ確かな一歩を踏み出しました。」が載る。

中国、韓国の経済発展で世界的に漢方薬の消費が増え、中国産の原料が値上がり、日本では入手難になりつつある。故郷秋田ではセンブリ（千振）などの漢方薬の原料がふんだんに自生、かつては胃腸薬として用いたり、キハダ（黄肌、スコロップ、黄檗）の黄色い樹皮を粉末化、小麦粉に練り込んで消炎・鎮痛剤として日常的に使っていた。生薬が自生する故郷は生薬栽培の適地だ。減反などで使われなくなった農地も多い。

中学、高校同期の元龍角散取締役、東京生薬協会の役員をした加賀亮司君と語り、加藤八峰町長に繋いで、故郷八峰町での漢方薬原料栽培を提案、加賀君と八峰町の頑張り、

植えてから3年、ようやく生薬として使えるようになる。カミツレに次いでキキョウも使えるようになったということで、小生も多少貢献。

引き続き、故郷八峰町と能代市・山本郡の地域が一体となって、薬用植物国産化の先頭を走り、生産から、加工も取り込み、町興し・地域振興に繋げて頂きたいものです。小生も及ばずながら、引き続き応援したいと思います。東京生薬協会と龍角散の、のど飴などに形を変えた、秋田原産の漢方を宜しくお願いします！

◎30万円と26億円

京大医学部の元准教授が、機器購入で便宜を図ったメーカーから、30万円相当の高級バッグなどをお礼に受け取ったと言うことで、収賄罪の容疑で警察に捕まった。片やお隣の国では26億円の賄賂を受け取った等の罪で、国家最高指導部の序列9位だった高官、周永康の終身刑が確定した。この国では30万円の収賄容疑で司直の手が及び、かの国の高官の賄賂は26億円。何たる違い！

かつて警察の幹部だった友人から聞いた話では、収賄罪の容疑で逮捕、立件するのは賄賂が百万円以上で、百万円未満の場合は立件しない。ただ百万円未満でも悪質な場合は、週刊誌に情報をリークするなど、メディアの力を借りて、社会的に制裁を加えると言う。そのことの可否は措くとして、今回実際に受け取った金額は百万円以上で、取り敢えず確実なのは30万円ということか？いずれにしろ受け取った金額は百万円単位。かの国の高官の場合は当初、受け取った賄賂の額は数百億円、数千億円とも、別荘も多数、愛人も数多いと言われた。26億円というのは、確実に立証出来るものに絞ったのか？取引の結果か？党幹部なんて皆同じ穴の貉と考えられ、党に対する反発が大きくなるのを抑えようとしたか？いずれにしろ桁が随分違う。しかも図体が大きい故に経済規模で日本を抜いたとは言え、国民総所得を人口で割れば日本の数分の一の国である。食うや食わずの人間もまだ少なくない。それだけの金を違法に懐に入れて、安穩としていられる輩が数多いとは！

習主席の下で、実際に取締りを指揮する王岐山が、モルガンスタンレーとの癒着を疑われ、モルガンスタンレーにアメリカ司法当局の操作の手が伸びていると報道されているくらいだから、政争に勝った側が、負けた側を暴く、追い落とすためにしているということなのだろう。中国高官子弟の外国留学やアメリカ企業への就職も問題になっているが、習主席のお嬢さんもハーバード大学に留学したと報道されていた。かの大学に留学した三鷹寮の後輩によると、学費、生活費で年間5百万円ほどかかるという。党幹部とは言え、公務員の給料でどうしてその費用を工面するのだろうか？

🐼 アマダイのミャンマー紀行Ⅱ（2014年8月15日～、クラブツーリズム

「全日空直行便で行く！気軽にミャンマー黄金の仏教国4日間」

③インドと中国の間

1855年の第3次英緬戦争に敗れイギリスの植民地となったミャンマー、一時の日本による支配を経て、第二次大戦後の1948年にイギリスから独立。車はイギリス式の左側通行から右側通行に切替えたが、車の大部分は日本製の右ハンドル。タクシーやバスの乗り降りには気を遣う。空港から市街地に入ると白いワイシャツにミャンマー流巻きスカート、

ロンジーを履いて下校する少年、少女の群れ。迎える父母もいてごった返す校門。子供達を乗せる、トラックの両脇に座席を設けたバス？が群れる。インドと似た風景だ。イギリスがインド領の一部としてミャンマーを支配した名残か？義務教育では一応学区制がとられ、近くの学校に通うことになっているが、進学実績のいい学校には遠くからも通うようだ。因みに大学は個人の志望とは無関係に高校の成績で進学先が割り当てられ、成績最優等生は医学部が指定されるという。ロータリー式の交差点も植民地支配の名残だが、信号が少なく、車の流れの空くのを見て、器用に渡って行く。

市内に二つある、公園も兼ねた水道用の人造湖の近くにホテルはある。古いが、部屋は広くゆったり、トイレには水洗が別に付き、お尻が洗える手動式ウォシュレット。樹脂製配管が中々言うことを聞いてくれず、ノズルの強弱の調整も儘ならないのは困る。バスタブにお湯を張ると、若干色がついている。水道の水を直接飲むことは出来ないようだ。チップはまとめて払うとガイドが言っていたが、荷物を部屋に運んだポーターが出て行かない。3百チャット(30円)札を出すを受け取らない。1ドル札を渡すと、ようやく出て行く。

ホテルからレストランに向かおうとすると強い雨、スコール。幹線を外れると凸凹道。ミャンマー料理をご馳走になる。タイよりインドに近いので、辛いのを覚悟するが、辛い緑の唐辛子を入れなければ大丈夫。中国に近いベトナムは、インドに近いタイほど辛いので、インドと中国の間の国はそれぞれの料理の影響を受けて、インドに近いほど辛いと思いこんでいたが、単なる思い込みだったようだ。両大国の間の国は、両大国の政治的、社会的影響を強く受ける。ミャンマービール大瓶一本 3千チャット(300円)、アルコール度は5%あるが、少し薄く感じる。サラリーマンの平均月給1万円からすると割高だ。敬虔な仏教徒が多く、アルコールの生産量が少ないからか？

④ 立派なパゴダと

2日目の朝早く、空路国内線でカンボジアのアンコールワット、インドネシアのポロブドールと並ぶ世界三大仏教遺跡の一つパガンへ。早朝6時10分のフライト。4時半に起き、あたふたと身繕いと荷造り、バスの中でチーズサンドとバナナ、茹で玉子の弁当で腹ごしらえ。片側二席ずつ、30列くらいの小さなプロペラ機で雨季の空に舞い上がる。眼下は遙かに雲の海。雲が切れ、蛇行して流れる泥の大河と、雨季とは思えない赤茶けた乾いた大地が現れるとそこがパガン。空港の外周に一定間隔で私服の警備員が立つ！？今では40平方キロの市域に16万人が住む田舎町だが、11世紀にアノヤータ王がビルマ族による初めての統一王朝、パガン王朝を樹立してからは、4千ともいう無数の仏教建築が造られ、未曾有の発展を遂げた。2百年間続いたパガン王朝はフビライ・ハン率いる蒙古軍の襲撃によって崩壊する。勢いに乗った蒙古軍はインドも攻略、ムガル帝国を樹立する。その後19世紀半ばにイギリスの植民地になるまで、パガンは朽ち果てたまま。

まばらな樹々の間に無数に散らばる、時に金色に輝き、沢山の仏像を祀る仏塔、パゴダが往時の隆盛を偲ばせる。雨季というのにカラカラに乾いた大地に、なんとおびただしい数のパゴダ！雨季でも赤茶けた、緑少ない大地の生産力で、かくも立派な無数のパゴダの建立が可能だったのだろうか？余剰生産力の全てが仏教施設の建立に費やされて拡大再生産することなく、数百年間変化することなく佇んで来たようにさえ見えるパゴダの群れ。多分かつてはこの地も緑豊かな沃野で、だからこそ、王朝が開かれ、栄えたのだ。そして、

栄えれば栄えるほどに、多くの民が口にする食糧を増産するため、食糧を煮炊きする燃料のため、時に庶民の雨露や寒暑を和らげ、権力者の勢威を誇示する小屋や館を建造するために、緑の森は切り開かれ、大地は乾いて行ったのか？世界の文明発祥の地が全てそうであるように。そして 21 世紀の今も、人間は未だ文明と環境を調和させる術を身に付けることが出来ないでいる。地上の全てが荒れ地になるまで人類は増え続け、資本は辺境を目指し、終には滅びるのか？乾いたパガンの大地を、土埃を巻き上げ、熱風が走る。

車体に「いずみ」と平仮名で書いたバスで、飛行場からパガン市民の台所、ニャンウー・マーケットへ向かう。レンガ積みの壁にトタン葺の屋根の粗末な民家が続く。仏の住む壮麗なパゴダに比べ、生身の人間の住む家のなんとみすばらしいことよ！二階、三階建ての公共の建物でもレンガ積み、漆喰の白壁にトタン葺で暑そうだ。夏暑く、雨音のうるさいトタン屋根、かつては日本でも多かったが、瓦やスレート葺に変わった。その前は茅や杉皮、杉板葺だった。パガンでも草葺の屋根が少し。山羊や羊、牛の群れが乾燥した大地の草を食み、道路を横切るが、痩せている。二頭の牛が引く犁で畑を耕す。農業の生産性向上の余地は大きく、いずれ余剰労働力として都市に移動、都市の安い労働力になるのか？

市場には卵や鶏の肉だけでなく、牛や山羊、豚肉も売られ、その場で鉋や包丁で大きなブロックから小さな塊に小分けされていく。小魚から大きな 1m もありそうな鯉や鯰まで、川魚も豊富だ。海に面している国だが、海の魚は余り食べないようだ。海魚は食べない！と断言するガイド本もあったが、目の前の海で獲れる魚を食べないということが、あるだろうか？本当に食べないとしたら、その理由は？短い道中では知る術もなかった。衣食住のあらゆる日用必需品が、バラック造りの市場で売られ、活況を呈している。雑踏を縫って、お皿に頂いたお米等のお布施を、頭に載せた編み籠に器用に投げ入れ練り歩く、お坊さんの群れ。焚鉢する濃い橙色の袈裟が男の坊さん、桃色の袈裟が尼僧だ。総勢 7 人のツアーだが女 5 人は巻きスカート、ロンジーの生地の商品定めに余念がないが、日本でも戦後よく使われた懐かしい足踏みのシンガーミシンで、その場で仕立てて貰うのには関心がないさそうだ、買って何に使うのだろうか？買うことに意味があるから雌牛は COW！？

「今思うこと」(柳澤伯夫元金融担当相)・・東大三鷹クラブ 121 回三鷹クラブ定例懇談会

7 月の三鷹クラブ定例会の講師は柳澤伯夫さん(昭和 32 年入寮、城西国際大学学長)です。三鷹寮在寮経験者の中で、衆議院議員又は参議院議員に当選された方は延 20 人、1 度でも大臣を経験された方は 8 人に上ります。柳澤さんは、平成 10 年、国土庁長官に就任以来、同年国務大臣(初代金融再生委員長)、平成 13 年金融担当大臣、平成 18 年厚生労働大臣と、最も多く 4 回にわたって閣僚を務められました。また自民党内でも、税、財政、金融政策のエキスパートとして、閣外にあっても、わが国経済が危機に瀕した時期に、税、財政の改革、金融の健全化に大きな役割を果たされました。

三鷹クラブでは、平成 12 年 11 月の第 34 回定例会で、世界と日本の金融再生について御講演いただいたほか、平成 24 年 1 月の第 100 回記念シンポジウム「現下の経済・財政政策を考える」では、シンポジストの 1 人として御登壇下さいました。

政界を離れた後は、城西国際大学学長として、次代を担う若い人々の教育に力を注いで居られます。政策運営の中核に居られた 10 数年前とは立場は異なりますが、今だからこそ言え、言いたいこともあろうかと思えます。わが国は、すでに人口減少時代に突入し、

政治、経済の前途には難しい課題が山積しております。柳澤さんのお話をきっかけに、出席者の方々との間に活発な論議が交されることを期待しています。（平賀 記）

日 時：平成 27 年 7 月 28 日（火） 18 時 30 分～21 時（18 時開場）

場 所：学士会館本館 302 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会 費：5000 円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

定 員：50 名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEEN で（講師参加）行います。

◎ネットワークを拓けよう！久しぶり事務所コンパ

新入生歓迎会でコンタクトが取れて、久しぶり寮生と事務所コンパ。駒場の 2 年生が 2 人、瀋陽の高校から入試でダイレクトに入った工学部の 3 年生が 1 人、駒場の院生が 4 人、08 年入寮、工学部の院終了で就職、最近 IT 関係のベンチャーを立ち上げ、身を削って社員 2 人に給料を払っているという岡本君、より 2 年下、ようやく利益が出るようになったという福祉系コンサル起業の井上君が故郷松山の地酒を持参、10 人で遅くまで盛り上がる。

寮でのイベントに三鷹クラブから差し入れの鮎桶持参で参加するだけでなく、事務所でコンパや、平日は忙しい、若い社会人 OB も参加出来る、土曜日午後遅い時間からのイベント開催も話題に。今年は追い出しコンパがなかったので、安いレストランでも借り切って、本郷へのウェルカムパーティをやるのも面白いかなと思ったりも。

ブラック企業に就職、困った岡本君が相談に来て、同期の小林弁護士につないで、彼のアドバイスで無駄な係争を避けることから、岡本君の起業につながったように、総合大学の寮ゆえ、文 I の弁護士から、理Ⅲの医者まで、全てのソリューションが揃っている。縦・横の輪を拓け、そのソリューションを世のため、人のため役立てるためにも、素敵なネットワークを拓けて行きたいものです！

参加者は、北條 新之介（2015（院）・総合文化研究科（地域文化研究専攻アジア科中国）・真岡（東北大学））、唐津 裕貴（2008・理 I →理学部 数学科（数理科学研究科 M3）・淳心学院）、渡邊 聡（2008・理 II →理学部 数学科（総合文化研究科広域科学専攻相関基礎科学系）・秋田）、田中 宏明（2013（院）[2009・理 I、入学辞退→ICU]・総合文化研究科（情報理工学系研究科）・星城）、崔 正行（2013・理 I →理学部 情報科学科・瀋陽）、鎌田 頼人（2014・理 II・北嶺）、八木 孝弘（2014・理 II・桜丘）、岡本和也（2006・理 I →（株）ARoW 代表取締役・岡崎）、井上 豊（1968・文 I →（株）コミュニティー・プランナーズ 代表・愛光）

◎夢の続き！？

苗場の更に山奥のかぐらにロックフィルダムと水力発電所を持つ電源開発の新規事業、井水利用専用水道事業の営業を手伝う縁で、越後湯沢に拠点を持つゼネコン奥村組と地元ゼネコン森下組との関係が出来、ガーラ湯沢スキー場の使い切れきれない法人用リフト券を両社から頂き、今年の 5 月の連休は念願の留学生とのスキーツアーが実現。

朝 8 時前に三鷹の寮まで迎えに行くが一年生の女の子が出て来ない、電話して起こす。香港からの交換留学生と一年生の男の子と 4 人を乗せ、練馬から関越道に乗る。8 人ほど手をあげたのだが、急用が入ったり、怪我したり、直前の講義で課題論文の提出を命じられたりで、4 人に。8 時半くらいに寮を出て、11 時半くらいに越後湯沢着、この時間なら待たずに美味しいそばを中野屋で食べられると入口を開けると、早や行列。4 組、30 分ほど待って、美味しいへぎ蕎麦をご馳走、皆でちゅるちゅる。森下組に紹介して貰ったレンタル屋、ベンリーさんの好意でウェアとスキーをただで貸して貰う。

スキーは初めての香港からの留学生張君(経済学部)を GALA のスキースクールに入れ、初級から中級のグレンデで日本人だけで楽しむ。高 2 の時の修学旅行で 3 日間だけ滑ったという新入生の男の子は転びながらも、中級コースを滑り切る。スキーもウェアも家にはあるという女の子は山頂からの上級コースを滑りたいと一緒に降りるが、❄️に数日の長。一時間半の講習が終わるのを待ち、スキーを履いて歩き、谷側を鋭角にして滑るボーゲンで左右に曲がることと、止まることを覚えたホウ君と初級コースを 2 本ほど滑り、中級コースへ。チャレンジ精神旺盛だが技術が伴わず転んでばかり。本人は至って面白いらしい。転んでばかりなので、見ている方が気の毒で、中級コースの頂上から左に抜け、林道の長い初級下山コースと一緒に楽しむ。5 時のリフト終了まで、目一杯楽しむ。

スキー用具を返し 6 時前に高速に乗るが、事故渋滞が 2 回ほどあり、寮経由での帰宅は 10 時半過ぎ。次代の世界の頭脳の命を預かり、気を使って往復一人で運転、悪雪での半日の滑走でも疲れを微塵も感じないのは、車の運転とスキーがよほど好きなのか？二十歳の❄️が夢見て果たせなかった夢の幾ばくかの実現を半世紀後の若者に期待するからか？

寮委員会の吉備悠理さん(2014・文Ⅲ・姫路西)のお世話で、念願の寮生とのスキー日帰りツアー実現。参加したのは、荒井志織(2015・文Ⅱ・土浦一)、入江政行(2015・文Ⅰ)、ホウ(2014、香港)、山田梨紗(2014)の四名。

◎歴史楽観主義(終わりに)

第二次安倍政権成立以来、内閣支持率が下がるのも気にせず、無理矢理憲法解釈を変えて集团的自衛権を認め、日本の再武装と軍備強化へ突き進む安倍政権。それに対して近隣 2 国は更に身構え、軋轢がます。経済的には切っても切れない仲の、お互い相手を選ぶことが出来ない隣国関係の 3 か国。歴史的にはやっつけられたり、やっつけたりの関係もあったが、仲良く交流を続けて来た歴史の方が長い。直近で他の 2 国に一番ダメージを与えたのは日本なのだから、他の 2 国に対しては謙虚でなければならない。

これだけ日本国民に定着した憲法を、アメリカに押し付けられたものだから改憲だと言いながら、その他のことはアメリカの言いなりで、弱肉強食の、格差の大きい、治安の悪い国に日本を変えようとしていないか？アメリカに対して聞く耳の幾ばくかでも隣国に向ければ、状況も変わろうというものだ。

安倍政権が声高に再武装・軍備強化を叫べば、国民の支持率は下がり、下がれば現政権の内にと、更に急ごうとする。しかし今や、国と国が国益をかけて全面戦争出来る時代ではない。その意味では歴史は進歩している。人間同士が、文字通り食うか食われるかの争いをしてきた時代から、何十万年、何万年もの時を経て、人間の肉どころか、鯨や犬の肉も食べてはいけないという時代だ。力で物言わせるのは止めにしたいものだ。再見！